9
B

⑨ B

豆相日記

H24. 3. 30
～ 4. 04

うきよのたび

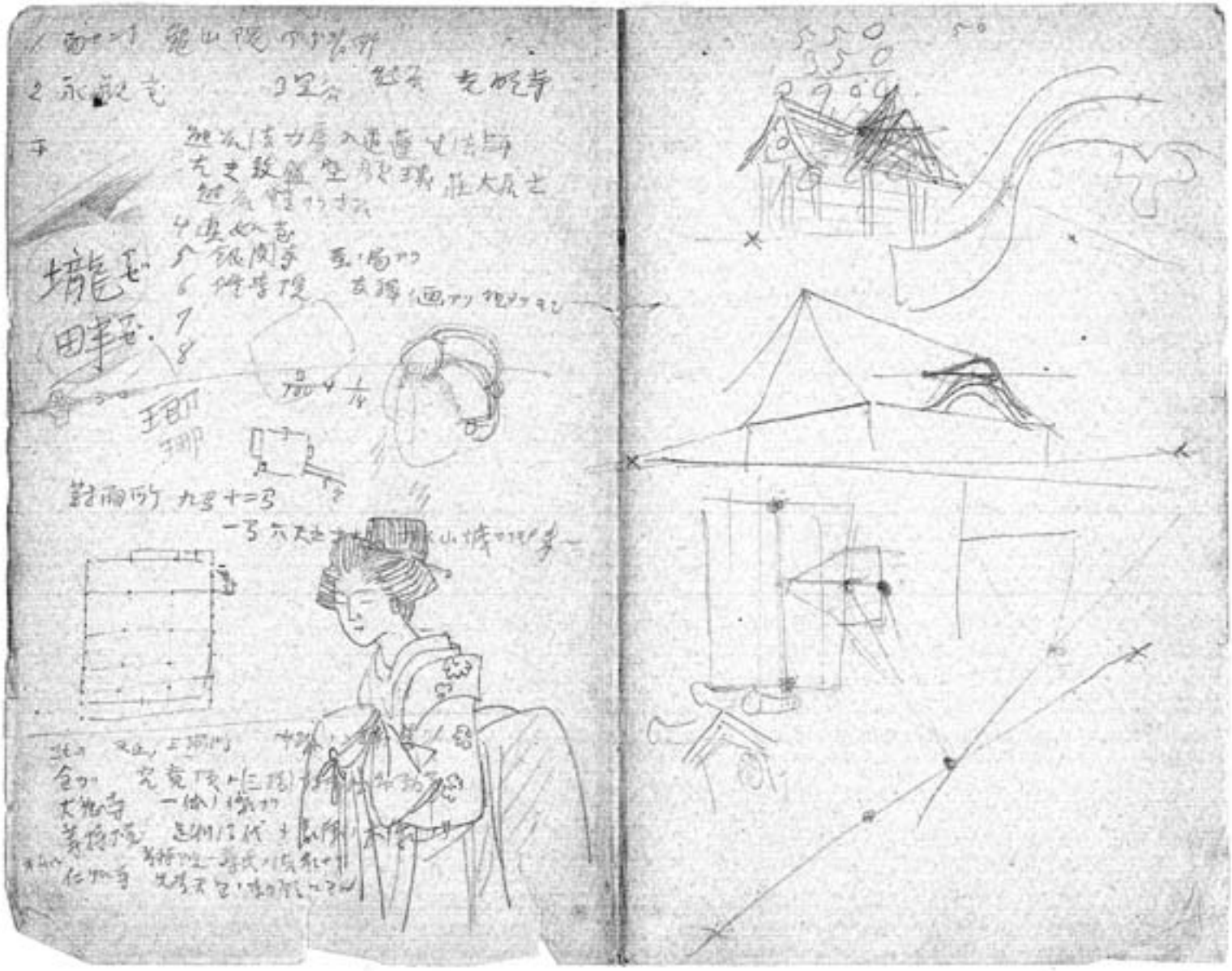
Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

守院寺善院
源之位剃髪扇之芝

Copyright 日本建築学会



Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

豆州日記

昭和四年三月三十日（日）

正午山岡中山余ヲ訪フ一時共ニ中者ノ湯ヲ新宿ニ至レバ田中先ノ至リテ在リ之来ル之ト旅切ハ先ツ汽船場ノ路ヲ取津ヨリ伊豆ノ内地ノ経東海岸ヨリ帰途ニ就ベキ筈ナリシガ急ニ変ジテ先ツ豆州ノ西海岸ヨリ内地ニ及ホスコトニ決シ国府津ノ旅宿ニ泊リ夫レヨリ往歩ハ田和ニ至リ片岡ニテ一泊スルコトニ山岡氏旅宿ノ中ニテ帽子ヲ飛バセテ舞踊アリ

Copyright 日本建築学会

三月一日（火）

六時半田原発六人交代ノ為行シタ江ノ浦ニテ休息支度体温山ヲ通リシテ午後一時熱海ニ着シ山岡氏ノ家内ヲ大変銃ニ撃ル為ニ其ノ為ニ費ノ為ニ昼飯ヲ喫ス田中、中山、安田、新元等ハ激銃ニ赴キ両水流ノ入発等ヲ為シ余ハ銃ヲ持ち野生ヲ捜ス。三時熱海ヲ発スコレヨリ先キ熱海ヨリ下田迄ノ里程不分明ナルカ為メ熱海ニ一泊セントスルノ議起リシモ直ちニ否決セラレシカ熱海ヨリ峠絶壁陽山路ヲ辛ク上リ登下リ数ノ両村ヲ経テ個代部ニ着スコノ間ニ生ニ国事ノ個代ノ一寒漁村ニテ宿泊ス主等ノ為シツツ白キ足美ハキノハヤリ何ハヒノ何ヤラトモ言ハレ一泊セリコノ日ノ生九里半

四月一日

七時頃出発大峠を越へ義伝兄の建て
伊東に着コノ方三里と云へど三里と感し伊
東より再び峠を越へ宮山(260m)と云フ
富士山と似タル山の左に見海岸の方へ半
里程の所を行クフ一里ハ叶てしを去田お
逢へコノアリハ牧野村の somo 二里ノ
方ハ殺風景ナル荒野にして樹木なク センゴク山
と云フ最大山(800)城址としテ城手の痕ヘ
野面ニハ例ノ伊豆石郡布セラルハ貴ク
センゴク山ヨリ産出セシモノカ ヤ
二時ハ物呼ぶ一義発館に憩スル
ヤ新聞紙セラルスコ時ヨリ決
意スコトヨリ以南ハ道路狭隘ニ陥ル
疎後島をカクリ越セ四つノ峠を
大川至ル ましヨリ再び山路ヲカルと
疲れ且つ道路を失し六人隊ハ引ケ
或人ノ案内ト、中山氏村家ノ火縄ノ
照し失望ニ分ト為中八分ニテマフレクラと
山を越へ谷を渡し午後九時ハ熱川ノ
温泉旅に着スコトヨリ艱難辛苦ハ言し得
ヲ得スベカラス只金部ノ心ト死時人
足ハ大に部ノ田中、本見両氏迷路ノ故ヲ

Copyright 日本建築学会

しべチ部ヲ渡リタリ看後流儀ニテ大ニ気力
加復シ多少ノ辛ヲ覚ヒ昼食ニテ快ヲ取
ル コノ日行程十里 大ニ辛苦セシ日ナリ

Copyright 日本建築学会

二日

午前九時出立 海岸ニ沿ヒテ大峠ヲ越ヘテ
福浦村ニ至ル コヽヨリ足ハ馬ノカゴニ乗ラン
思ヘドモアルコトナシ (福浦迄一里半) 大峠
二つヲ越ヘテ 二里余迄ヲ経テ川津ニ至ル
足ハコヽヨリ駕籠ニ乗ラン人他ハ皆歩ミヲ
田中氏ハ足ノ疲ル過ヒテ篠倉, 河内ヨリ
下田ヘ越キ余ト中山ノ山岡ハ白濱ヲ経テ
下田ヘ着キタリコノ地アンマ「ちんぽ」ヲ揉マ
シムアンマ無角ノ牛ト戦フ物語ル所アリ
田中氏中山氏ヲツキ殺バマト云フ珍
言モアリ中々賑ヒカナリ コノ日行程凡ソ
七里ナリ

Copyright 日本建築学会

三月

六時半ノ下田発足ハ北ノ沢ト云フ所マデ
車行中山ハ車ト共ニ走リ去レ、山岡ハ進
ム余ト田中ト又之ヲ追フ、田中ハ余ノ不手
ヲ北ノ沢ヨリ小鍋峠ヲ越ヘ大鍋ヲ過キ
熱海ニ至ル足ハヤリ、ガヤニ来ラント思ヘ
ル馬ノ代銭ヲ引ツ張リタル馬ヲ牛ニ騎
ラントスルニモ生憎ト両方無カシ徒ニ足ハ
弱ルノミ、従与モリ翁ハ天城峠ノ麓ト
アコヨリ上ル一里ニテ、ホーリー婆ヤリコヲ屋
敷ナル婆ヤ一里程路ノ急峻ナル所ヲ登
ル六時ニシテ現後ニ達ス(6時)下ノ足大ニ
引ク後ルヲ待チカ田中ト余ト相ヒ、中山、中岩
山岡三人相相ヒマツコヲ峠二里半余ヲ下ル
ヲ湯ヶ島ノ停ル西平温泉ニ投宿ス余ハ
田中ト分レテ足ヲ待ツ合セ茶ヲ進行セシ内
ヒ人力車来ル即チ乗リテ西平ニ着シ
宴ヲ張リ興ヲ増ス接待ノ手ビテ接マシ
田中飛ビ上ル奇技ヲ力ラベ指ベマー
ナ大騒キアリ コノ日行程九里

Copyright 日本建築学会

四日

六時五十分両手出発足ハ車行シソノ他ハ皆カチ修義寺ヘ赴キ三島ハ一番銃砲店ヤラ亭トカ館トカヘ投シニ又休シテ屋食ヲ食ツカマツリ沢津ヘ帰ツノ人力ナ三輌アル由ナレバ余ト足ト田中氏ハコレニ乗リテ行カントス決シ他ノ三人ハスタ〳〵歩ミヲキワ迄マンマトス決ス皆カ連ハ十二時ニ車行連ハ一時ニ修義寺ヲ発シ三島ニ向フ途中山岡氏大ニ疲シ(他ハ疲レタカナンカ)ニテ疲シカルニハアラズト云ヘリ)ヲ車行ヲナス余等ハ三島駅ニ至ル三島沢辺ニテ話リテ写生ス酔老ノ珍ラシアル三島ハ戸数凡ニ千ツノ繁昌カフ預ル外サシ七時沢津ニ着シエビヲ煮テ大ニ酒ヲ張リアンマツヲ命ス。余ト足ト山岡氏ハ疲レテ寝ル此ト中山、田内氏ハ元氣ニテ外ニ出カケシガ余等ハ他ノ時帰ツタルヤヲ知ラズ

Copyright 日本建築学会

五尺

Copyright 日本建築学会

田中角栄氏像

Copyright 日本建築学会

山岡武 肖像

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

中山安亮之像

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

山岡氏談

ハ僧侶ノ人ヲ仁王ト号スツノ教只能得
ミシテ仁王ニ撃スルウレシテナリ声ハ鐘ヲ
鳴ラスカ如ク謡曲ヲ謡ッテモ巧ナリ
蓋シ彼ノ声ハ腹ノ辺リ湧キ出ル声門ヲ
通過ス際ニ於テ艶ヲ生シ口ヨリ出ツルハ
諧調ヲ得ルモノトス彼ハ又詩ヲ作リ
能クシ二三種ノ唄ヲ能クス。西洋ハ近
頃研究中ニテ未タ熟セズト雖ドモ性
々好西洋ヲ出スコトアリ他人ノタキ西
洋ノ調ハ誰ヲ之ヲ記憶センヲ務ム
ルガ如シ。歩行点ハ中々感心ニテ遅
者トモノ外ニ伴シ時々引ヲ取ル。
点ハ本堂ニ及バス又我慢ノ点ニテハ中山
ニ及バズ只其公平ニシテ自ラ欺カズ中セ
我慢セズ怠ラザル点ハ彼シオーナリトス

Copyright 日本建築学会

田中苗吉郎

京都ノ人内儀さんト称スル顔貌猿ニ似タレバナリ即チ両眼接近シテ近眼ニ合ス妙ナリ顔色殊ニ紅ナリ考ヘ内面恵モリコソト思ヒヤラル、ソノ代リニ智恵ハ餘ル程アッ中々優リ難キ代物ナリ。常ニ唱歌ヲウナルコト妙ニ得ミガ今ハコレヲ止メタリ気角ニ餘リ怒鳴ラヌ方ナリ。酒落モ餘リヲハズ時々六十点以下ノ酒落ヲ思ヒ出シタ様ニ云フナリ。当行ハ Constant ノ一生ヲ以テ所平ニ尽セリト云フベシ彼ハ山ニ逢フテ引ケズ平地ニ逢フテ興ニ入ラズ坂デモ平地デモ妙ニ陰同様ノ速力ヲ以テ当行ス併シソノ速カハアマリ大ナル方ニアラズ之ヲ本当ニ比シテ大ニ及ハザル所アリヤセ戦慢ノ点ニ於テハ中山ニ及ハズトテ山岡ニ勝レリ

Copyright 日本建築学会

本堂極彩色

盛岡ノ人藤原トテ、オビンヅルト称シ地方ノ旅ヲシテ Spriss 博士ノ尊号ヲ得タリ。孟氏ノ食慾頗ル大ニシテ凡ソ食フ可キ性ノモノハ悉ク食セ尽シテ（食ス際）終ス所ナキニヨリ。氏苦吟ニ尤モ巧ナリ声玲瓏トシテ玉ヲナラスガ如シ。吾度化ノ自由ナル仏ノ国デアリト云フ伽陵鶴迦トカヽツ鳥ノ声ニ似タラン併シ脇ノ下カラ出ツルト云フ声ニハアラズ下田ノアンマガ二ナ才番後ノ人ト驚定シタル位ナリ。洒落ハ近頃熱心ニ研究シ時々講釈入リノ洒落ヲ云フ多シモ六十点以下多シ併シタマニハ甘キモノモナシトハ限ラズ。当月ハ大分面双ノ達者ニテ数里ヲ行クトモ疲労ノ体見ヘズ彼ハ彼ノ長キ足ヲ引ヲ軽ヤカト運バスフ程メテ巧ニ且ツ如何ナル速カヲ変セス天晴レノ当行楽ナリ中山日ク〝女堂ハ車ニ乗ルトスフ柄ジヤーラー〟ト叱又ツギトバサレルノ

Copyright 日本建築学会

中山武彦

京都ノ人顔色黄ニシテ白ク含ミ眉間ノ顔長ク鼻頭ニ一年中汗ヲカクノ癖アルヲシテ有名ナリ。氏好ンデ人ヲ批評ス併シソノ批評ハ殆ト常ニ消極的ニシテ往々面ヲ向ケテ人ヲ酷評スルノ奇癖アリ性洒落敏捷ニシテヨク辯ス併シアル場合ニハ極メテ沈黙ナリ夫レ故先日モ那珂令夫人ノ批評ヲ頂戴セリ。洒落ハ中々上手ナリ併シ味深キ洒落ニハアラズ所謂洒落ニハアラズシテ所謂洒落ナリコノ句味ヲ可シ。歩行ハ意外ニ遅者ニシテ能ク走リ能ク歩ム併シ又能ク休ミ能ク休マズ我慢能クマデ強シ併シ速力ハ常ニ一定セズ然ニ今回ノ強行軍一ヶ月車ノ力ヲカラザリシハ中山氏ト安達氏ト二人ノミナルハ感心ノ至リナリ

Copyright 日本建築学会

本堂氏中山氏ノフキトバス

本堂氏ハ温順篤実君子ナリトハ我等衆人ノ知ル処一同ノ是認スル所ナリ然シカ
議ニ曰ク
"地球ノ敵モ三度"
ト説ンヤ本堂氏ハ忍耐地蔵ニ及ハヌ度ヲナデ
ルコト三度以上ナラバ焉ゾ憤然トシテ怒ラ
ザランヤ怒ルハ無理ナラズシテ正當ナリソノ
正當ナルコトヲ為スハコレ常人ノ例ニシテ正當ナラ
ザルコトヲ為スハコレ奇人ノ例ナリ常人タラン乎奇人
タラン乎之ヲ撰ブ方寸ニアリ
下田ノ松本屋ニ投宿セル晩本堂氏ハ家ノ
女房ヲ呼ビ何カ佐々倉氏トヤラノ芝浦ノ墓ガ
ドコトカココトカトウ言フ話セリ就テ見ハ"ドーデモ
寺ニ縁ガアル"ト云ヒシガ口明ケテ四方ヨリ本
堂氏ヲヒヤカシ"本堂建立"トカ"ナムアミダブツ"トカ
云ヒフ滅茶苦茶ヲ言ヒダタリケル。本堂氏ハ大ニ困惑ガ
ラ居リシガ滅茶苦茶女房去ルノ後中山氏ニ向
ヒ君ハ甚ダ失敬ナリトテ、怒シル顔色酒朱織
ギ突然起ツ中山氏ヲフキ倒シタルニゾ中
山氏ハ呆気ニトラレテキヨロ〳〵セリ。艇ヲ
本堂氏ノ怒リノ血ハ顔ヨリ退キヌ。本堂氏

Copyright 日本建築学会

ハ中山氏ニ向ヒ一回怒リテマカセテ見タシ
ヲ使カキタリ必ズ恨ミ玉フコト勿レト。中氏
氏ハ其々仰ゾ恨ミマアラン只余ガ君ノ
怒ヲ引キ起シタルヲ悔ユルノミ"ト云ヘリ
本居氏ハソノ夜ハ自ラ深ク悔キヲ楽マザ
ルモハ如ク中山氏モ多少楽マザリシ風ナ
リ。
夫レヨリ人来シ本居氏ニ戯レ曰ハ
"突キ殺ガサレルカ止メ玉ヘ"
トテツヲ倒トセリトゾ。——。——。
"一言謹ムベシ"
"一行謹ムベシ"
本居氏ハ一行ヲ誤ラバ他ノ百行皆ナ
捨ツ。一度盗マバ生涯盗賊ナリ一ツ
徳ヲ欠ケバ一生無道ノ人ナリ。穴カシコ

山岡氏帽ヲ飛ハズ

只見ル一條ノ列車黑烟ヲ吐キテ京濱ノ間ヲ馳ス山岡氏性タンレイタナン手ニ帽ヲ持チナガラ頭ヲ列車ノ窓外ニ出シ痰ヲ吐キ出サントシテ後ノ帽ヲ忘レ出シ慌ツノ俄引キ取ラハ傍ラ人ハ口調ヲ変ヒタル中山氏ノ口調ナリ。

トモカモ山岡氏ハ注意周密ノ人間ナリ決シテ帽子ヲ飛ハス様ノ粗忽ナル人ニハアラズ而シテ今日コノコトアルハ如何ニ？

コノ間ニ著シク次ノ点ニ注意セシ

(1) 汽車ノトリトシテ乗リテ即チ不注意、不心得ノ

嗚呼山岡氏ヲ思ヒ出ス以後ハ注意シ玉ヘト餘計ナ心配ヲ申ス

Copyright 日本建築学会

無角ノ牛ノ7

下田港ニ十八人ノ娼妓ト十八人ノ遊客アリ其他三百名ノ淫買婦アリ名ケテ牛ト云フ其ワケト云ハ客ハ者淫買屋ニ入リテ燈火ヲ消シ寝ニ就リト均シク相手ノ女暗ヤミヨリ出テ来リ客ノ床ニムダリ込ム。暗ヤミヨリ牛ヲ引キ出スト云フ故ヨリ牛ト名ケタルモノナリト云フ。サレバ客ハ相手ノ老ケタ美醜ヲ知レズ唯ヘマ甚タツマラヌモノナリ。往年下田ヘ二百五十ノ舟碇泊セシトキハ三百ノ淫買女ハタラキキレズ下田中ノ婦人六十八才ヨリ十三才マデ悉ク淫買ヲ行ヒ中ニハ亭主持サヘアリシト云フ。併シ土地ノ人ニハ買ルヲ厭フト云フ。下田ノ婦人ハ一生ニ一度ハ必ズ淫買スルコトト定マリタリ左シハ客アリ或ル人ヲ頂ヒタ内娘ハ何オナリ玉フヤト問フ件主人十三オニナリルト云ヘバ客ハ「モー一年モタテバ左図屋デハセルナ」ト云フヲ礼式トスト云フ下田ニ限ラズ海港渡村ノ猥雑ナル風習ハ実ニ驚クニ足ルベキモノアリ

Copyright 日本建築学会

風ヲ食フト云フコトノ出所

中山氏列車ハ進行中顔ヲ窓ヨリ外ヘ出シ口ヲ開キ風ニ逆ヒテ大ニ呼ンデ曰ク"諸君見玉ヘコレガ所謂風ヲ食フト云フ事ノ出所ナリ"ト満車ノ旅客哄然トシテ笑ヒドヨメク

Pfeifenmeisterlein

第等ト同列車ノ中ニ見知ラヌ人ノ旅客アリ又ハ中等授業生徒ニシテ十七歳許リ第ハ年習授業生徒ヲシテ十四歳許リナルガ中々上品ノ顔付キナリ第ハ口笛ニ妙ヲ得巧ニフルヘタル音ヲ発シテ種々ノ音楽ヲ奏ス満車ノ旅客甫然トシテ耳ヲ傾ムケタリ

Copyright 日本建築学会

伊東孤舟

粉立ち奇妙なりて衆人の注意を引きしが孤舟見れば塩辛き単衣一枚の上に大なる笠を頂き素脚に脚半かけ馬丁的の足袋を穿ちて草鞋を付けず生来の裸生にして愛ず取り又風俗なり。酒豪にして上手なる時は百点モノを飲み出す隠れ芸にして芸事付けるやいなや即坐の料理にて感心仕れ。宿へ付きし時は朝起き出づる時一種の女子の黄色き声を張り立て大に呼ぶの奇癖あり。歩行は大に不得意にて第二日目より已に足を痛めて引けを取りたり。彼は生来酒を飲まざるにて酒を飲めばいかに引けを取りても已むを得ざるにて孤舟は当力を通せざるモノなり

田中氏ト按摩

湯場ニ投宿セシ夜按摩ヲ呼ブコトヨリ先キ余等ハ「クスグリ」会ヒ、力競ヘナドセシガ田中ハ腹ヲ按摩ニ足ヲ揉マセタリ按摩北海流ノ顔ヲ振リ立テ明晃々タル両眼ヲ剥ヒツカセテ田中ノ足ヲ手ヲカケルヤ田中ハ「アークスグッタイ」ト呼ビタリ按摩ハ一ツ二ツグリト揉ムト田中ハキヤツト絶叫シテ飛ビ上リ、タマラナイ、タマラナイ、アークスグッタイ」ト絶笑シテ逃ゲ出セリ按摩ハアツケニ取ラレ余等ハ抱腹シテ笑ヒドヨメケリ

按摩ノ年齢鑑定

下田ノ按摩ハ余等ノ容貌ヲ聞キ、何レモ同シ様ナ年輩ナリト評セリ試ミニ女老氏ノ年ヲ問ヘバ二十二才ナラントト云フソレハ大ニ違フト云ヘバ二十才以下ナラン乎ト云フ余等ハ呆レテソレハ大ニ違フト云ヘバ女老ハ大低ソンナモノダト云ヘリ。余ト田中トノ年齢ヲ問ヘバ、ミカト分ラヌ子ドモ田中氏ハ余ニ一才長シ居ルナランダト云ヘリメクラ減法界アヲニアルモノニ非サルナリ

Copyright 日本建築学会

孰是氏ノ我慢

孰是氏足ノ痛メテ苦ミ殆ント困難ナリ
集ニ後レテ常ニ殿ナ歩。伊東
君サヘ疲レテ苦シカロートト問ヘバ、苦々
ナリモ疲レズ只下駄ヲ逢フ片脚ニ
痛ヲ感ズルニ上リ坂ナラバ平気ノ平
左衛門ナリト憔悴疲労セル顔
色ニテ気ノ間ノ発呆シザルハナシ

車行ノ比較

歩行中モ多ノ車行(カゴヲカルヘテ)セシ者
ヲリ数ニ記セバ

伊東孫兵	十六里
伊東忠右	六里半余
田中苗太郎	六里半
山岡成松	三里半
中山甚吉	ナシ
中村徳次郎	ナシ

ココニテ大凡足ノ強サガ知ル

Copyright 日本建築学会

田中ト桂岩トノ不平

下田ヲ発スルヤ中山峠ヲ疾走シ山国谷ニ出次ヲ急行シ余ト田中ト後レテ詰町ヤリ田中大ニ怒リ余大ニ引ヲ取ル田中怒テ曰ク余等同志ノ士六名相共ニ天ノ一方ニ旅行ス，若シ得ヘシンバ應ク相携ヘテ徒歩スベシ，彼等足ノ健強ト我慢トヲタノミ大ニ急進シテ余等ヲ欺ク，コレ果シテ余等ノ友情ヲ尽スモノナランヤ彼等素ヨリ余等ヲ待ツテナンバ余ハ既然独行天城ヲ越ヘ修善寺ニ一泊ノ独立独行ノ旅シテ帰リ京スル已耶 余モ亦大ニ元気恐喝シ田中ノ猛談ヲ撥成シ共ニ不平ヲ鳴ラシテ進ム。

コノ不平アリ然ル後彼ノ輩アリコノ不平我ニ於テ発集ヨリ行カアラン。

ヒヤク〳〵

Copyright 日本建築学会

[illegible]

山岡氏ノ失策第一

山岡氏ノ失策ハ徐雅珍ヲ[illegible]トナリ中山氏ノ説ニ従ヘバ彼ハ下田ニ一泊[illegible]沈港ニ赴キシニ婢来リテ彼ノ背ヲ流ハントスル山岡氏ハ之ヲ辞シタル為ハ中々イニ王ニ憶ヘス。中山氏ハ山岡氏ト同浴シタルカ両人ハ一ツ長キ台ノ上ニ腰カケタリ中山氏ノ台ヲ離レト同時ニ台ノ一端ニ腰カケタル山岡氏ハ忽チニ顛倒シテアワヤト叫ヒ起キ上ラントスル[illegible]ニ彼ノ大ナル尻ヲ下女ノ顔ヘヘタリトコスリ付ケタリ下女ハスカサズ山岡氏ノ尻ノ[illegible]目ガケテ大ナル舌ヲペロリト出シペロ〜ト舐リシカバ山岡氏ハコラヘズキャットロ斗ビテ躍リ上リシトモ真カ偽カ余之ヲ知ラズ[illegible]中山氏ノ言ニ由リテ茲ニ記ス

Copyright 日本建築学会

山岡氏ノ失策第二

天城峠ノ絶頂ト近キ麓ニ一茶店アリ茶ト山岡氏トハ休息シ草鞋ニ足ヲ結ブヲ代ヲ拂ハントスルニ小銭ナシ山岡氏曰ク一円ヲ釣アリヤ〃家々迷惑シテ曰ク〃小〃銭ナキヤ〃日〃十銭ナキヲ以テナルヲ解セザルヤ〃家々大ニ困ミ蝸舎ヲ隈ナク捜索シテ辛フシテ一円ノ銅銀ヲ集メテ山岡氏ノ面前ニ并ベタリ山岡氏ハ中ヨリワラジ代ト別ニ一銭ノ茶代ヲ拂ヒ九十六銭ヲ革嚢ニ収メテ茶ト足早ニ峠ヲ向テ上リ去ル行ツテ一時半。家々脚モアラワニ宿ヲ飛ンデ追ヒカケ来リ絶叫シテ曰ク

〃モーシモーシイチ客様，一円頂戴スルンデスヨ――――〃

其声震ヘテ甚タ哀シ．山岡氏気ガ附テ曰ク〃アー忘レタト疾走山ヲ下リ曲ル目ニテ家々ト〃烈シク額ヲ打チ合ヒ其弾カニテ双方バッタリト仰ツタリ，家々ハ呼吸ヲハズマシテ〃一円ヲト叫ブ山岡氏ハ〃ハイ気ヲ付カナンダ〃ト言ヒ訳シテ惜シゾーニ一円ヲ拂フテ引ヨ

孤高氏ハヤセ我慢 Kennt Reine Grenze!

なお為ち出ル時孤高氏軍衣一枚ニテ肌栗ノ生ル顔色焦悴ス集日ノ〝寒キ位ダ〟ゾヤ〟孤高氏歯ヲガタ付カセテ曰ク〝平気ナリ〟集交モ〈孤高氏ヲ冷カセバ彼庶ニテ曰ク〝余ハ未熱ニテ堪ヘ難キ程ナリト〟故ニ顔ヲ列車ノ窓外ニ出シテ疾風ヲ迎ヘステ其我慢ヲ示ス集呆然トシテ大笑シ孤高氏無理ニ苦笑ス

然リト雖彼ノ我慢モ亦 Grenze アルヲ発見サレタリ彼ハ陰ニ女者氏ノ毛織ノシャツヲ借リテ之ヲ着用シ顔色ヤヽ復セルニ至リシコトアリ

Copyright 日本建築学会

沉津駅ニテ田中、中山ノ両
三氏ノ奇遇

沉津ヘ一泊セシ後田中、中山両氏ハ九時過キヨリ新宮ニ出カケトアルソバ屋ヘ入リ天プラソバヲ命ス 他ハ切身ノ奥ヤリシカバ三人ハソノ意外ニ驚キタリコノ店天プラソバノ外ニ牛肉アリスシアリ他々ノモノヲ東京ヲモー一ツオマケニ片隅ニ無角ノ牛肉アリ一鍋三十銭位ナラント云フ下田ノモノヨリハ美味ナルベシ三人十時半宿ヘ帰シ宿ノ若イ者ヲ呼ビ日々ノ僻地ノ遊廓モトヨリ即君等東京士人ノ心ニ合フノ○○ナシ、然シ田舎ノ○○亦タ一種ノ味ナキニ非ズ即君何ソ之ヲ試ミザル"ト田中氏ハ微笑シ中山氏ハ冷笑シ水堂氏ハ苦笑ス、若イ者即チ世事笑フナスエヘ……コレデ新庄氏ニ一笑ヲ笑フヲ賞ヒタイモノ

Copyright 日本建築学会

内殿場ト富士トノ関係

内殿場ハ何テンモ"ナリ内富士山ハ全テ雪ノ肌ヲ丸出シニシテ天下ノ多情才子ニ見セヲ以テ名ノ其視野ヲグルリトマクレバ脚アリ、谷アリ、腰アリ、腹アリ層々斜ヌベシ。然シ余等ガ傍系無人ノ冷カニ連ナルコトハ内富士更ニ知リタツケン サマガノ内テンバデ形ヲ隠シテ見セザツケリ、遂ニ彼ハ中ムレレモノナリ顔ハ白雲ノ内ニカクシナガラ裾ヲチヨイトマクリテ白キ脚丈ケ見セ余等ヲ脳殺セントスルモノナリ。内ふじさんつれないぞや。

Copyright 日本建築学会

坂ヲ安全ニ下ル大発明

後向キニナリテ坂ヲ下ル時ハ少シモ足ニ疲労ヲ感ヘズソノ代リ速力ヤ減スベシ
コレハ余カ一生一代ノ大発明ナリ嗚呼
功績ハNothdurftニ由リテ始メテ
得ラルルモノナリ坂ヲ下ルノ難儀ヨリ脱
シ之ヲ救ハンコトヲ考ヘ出タラメニ独々ノ工
夫ヲナシ而シテ発ニ功績ヲ挙ルニ至ル
コト全ク那ポレオンガ偶連英傑ヲナスコト
云フ金言ニ適中セリ 拙発明コノ法ヲ
以テ凡テノ坂ヲ下ッタナラバ第一後ハ十町
スワ三十六町ダ

天城峠 象峻鳥モカケリ難シ金等路
僧ノ里程標ヲ見テ其行程ヲ知リ
其路ノ乾ハヘル楽シ 志ヲ路ニテ日ク
三十六町ノ標ヲ至テ休息スベシ
金等疲レタ一足ヲ引キヅリテ撃ダ 撃リ行
ク行ク路傍ノ標ヲヨム(眺ム)、三十町三十一
町、三十二町、コノ世気力大ニ弱シ 特ニヘコタ
レントス、気ヲ励セシテ行クコト町又町：三十
四町、三十五町、……ソラ三十六町ダ
集一時ニヘタバリテ五色ノ呼吸ヲ吐ク

Copyright 日本建築学会

中山氏ノ大注意拙者ノ大傾聞

紅川ニ下シテ日全ク暮シ暗ク足ヲ辨セズ路ハ不案内ナリ岩石ハ多シ若シ一種ノ光ナカランニハ余等ハ空シク山上ニ露宿スベカ或ハ身ヲ傷ランカ他ニ氣ナキナリ、先見家ヲシテ有名ナル中山氏ハ懐中蠟燭ヲ貯ヘタルガ時ニトリテノ大幸ニテ一ツニ点火シテ路ヲ辿スニツノ明キ白昼ノ如キモ如何セン嘯ハ更ニ燃ヘテ忽チニ尽キントスルニ至リ秘密ガ洩ラシテ有名ナル（トモトナキ物ノ先見家ヲ前ヘ置キ）拙者ハコレニ一策ヲ夢ヘ出セリ其法ハコノ蠟燭ヲ細キ竹ニマキツケテソノ一端ニ点火スルコトニシアリシ暫クシテ蠟燭ハ紅川ニ落スル件ナホ幽ナル餘シタリ

コノ行中山氏ナクンバ此事ナル困難ヲ極メタルナルベシ然シテ余ナクンバ何ヲシテカ中山氏ノ功績ヲ成スヲ得ン乎然ハ則チ余ノ功莫大ナリトナセ大ゲサ申マ

Copyright 日本建築学会

拙者ト下田ノ婢牛トノ関係

下田ヘ一泊セシ夜婢牛アクヲ拿等ノ傍ニ待坐シ野郎ナル言葉ヲ以テ挨拶スル オヤ衣物ノ襟ガコンナニナッテ，直シテ上ゲマシヤウ" ト云ヒツヽ余ノ襟ヲ直ス序ニ彼ノ不潔ナル手ヲ余ノ神聖ナル頭ニ加ヘテ妨ナコトヲ為セリ余ハ冷ヤリト覚ヘテ頭ヲ端メシニ彼ハリノ手ヲ引き取リタリ。アンナ婢牛ニハ惚レラレテモ嬉シクナイチ，吠惚レル奴ガアルモノカ，仮惚レタンダ，馬鹿ラシヘ，コノ事論預カリ

乃神乃聖

八幡野ノ茶店ニ額アリ，乃神乃聖" ト云フ田中先ッ預ラ」ノガ「ノ聖」ト云ヒ自ラ怪シム山岡注釈ニテ曰ク乃神ハ神官ノ訛ナラン中山曰ク昔シ乃神ト云フ人アリ聖人ナリシヲ以テ乃神乃聖ト云フ拙者曰クコレハ乃神乃聖ト誤ナリソノワケハ知ラズ" 荻度氏曰クコレハ乃神乃聖ト云ヒ乃神ハ矢張リ人ノ名ナラント洛か本居氏曰ク，諸君皆誤レリコレハ乃ハケ神乃ハケ聖ト読ミナリ" ト一同，ナール，程ト云フ説ハ聞クヘズ

Copyright 日本建築学会

八幡野上ノ中山武彦君ト
三島駅上ノ中山先生トノ関係

Copyright 日本建築学会

三島神社写生ノ一奇譚

Copyright 日本建築学会

旅行ノ方法ノ就テ各人ノ意思

其一

Copyright 日本建築学会

其二

Copyright 日本建築学会

本堂氏ノ喰飯 in 川津

川津家ニテ昼飯ヲ喫スル際本堂氏食慾猛大ナル為メ忙シク茶漬ケニシテ大椀ヲカッコム飯粒喉ヘカヘ喰一口喰スルノ際鼻汁遮リ出ヲ慌テ傳ヒ椀中ニ入ル本堂氏即チ牛的ノ舌ヲ出シテ巡ッタリコレヲスッリ込ミ舌鼓ヲ打ツテ曰ク美ナル哉我ガ鼻汁ハ菜ノ不足ヲ償フニ足レリト遂ニコノ氏遂ニ菜ヲ尽シテ餘サズシリ

川津ノ家屋ノ四十余年
卜十四年

四十餘年十四年，紅塵浸侵惹因緣，石亭春花巫山夢，斜作桂川橋下煙。本堂氏後ニ発ヲ之ヲ解セズ余家ガ代ル代長九郎ノ伜ヲ預ル山岡氏問ヲ日ク何ルヲ世ニ多シ不知何スルヲ期ク有名ナル冬ヲ日ク方今人海際ニシテ愛情薄キト作者ノナキヲ以テナラント本堂山岡両氏ニシテ陵木ヲ等ブノ心アリ

Copyright 日本建築学会

田中氏野糞

Copyright 日本建築学会

温泉ノ統計

Copyright 日本建築学会

旅行ト夢トノ関係

Copyright 日本建築学会

山岡氏ノ律義ト拙者ノ
不徳義トノ関係

Copyright 日本建築学会

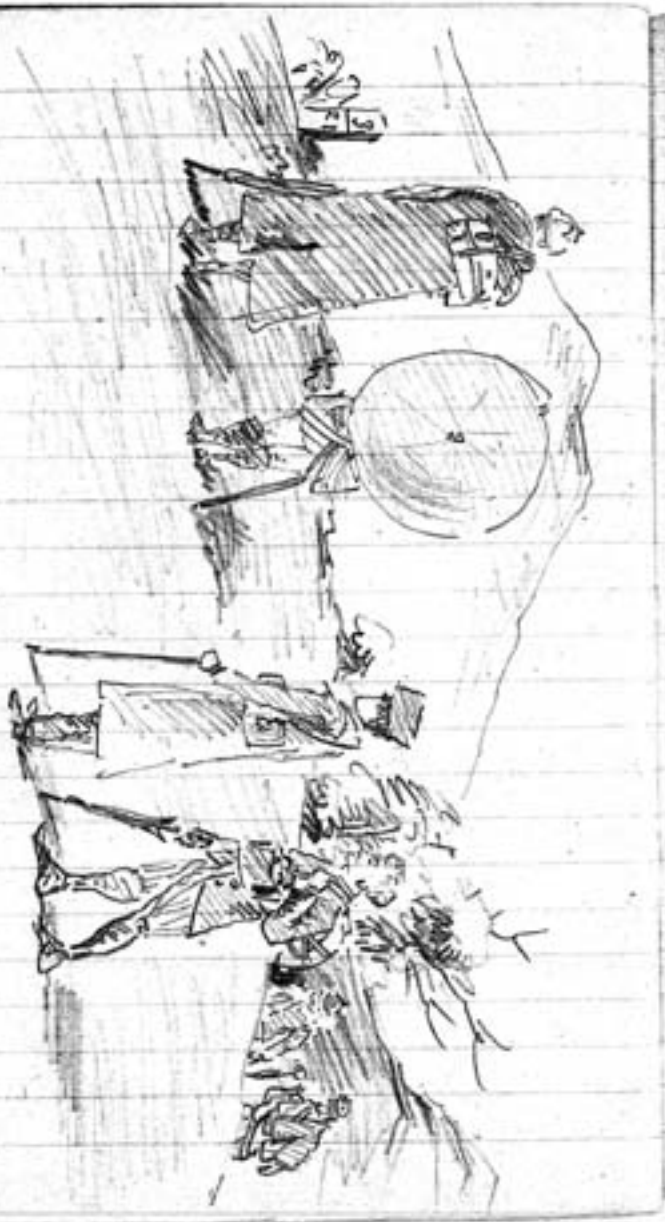
恐怪ト愚疾

Copyright 日本建築学会

行性総等

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会



東京ノ明ケ方ノ光景：
其二

Copyright 日本建築学会

Balneologie = 温泉学

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

9
B

⑨ B

豆相日記

H24. 3. 30
～ 4. 04

うきよのたび

Copyright 日本建築学会